

創造的人づくり

視点におけるポイント

評価すべき点

- ◆駿府匠宿や静岡科学館の「オトナ楽しむ科学館」のような事業は、大人と子どもが共に技術や文化を体験できる事業として評価できる。
- ◆「まちかどコンサート事業」は常に鑑賞する愛好者も多く、市民の間で定着してきている。
- ◆コロナ禍であっても様々な機会を通じて人づくりにつながる施策を行っており評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

- ◆市民にとって文化芸術を鑑賞することが生活の習慣になるよう文化を享受する機会が日常的に継続されていくことを期待する。
- ◆コロナ禍で活動の機会を制限されていた若者・子ども達の育成や活動支援を意識した取り組みが求められる。シビックプライドの醸成は、日々の積み重ねの中でこそ育まれていくことを忘れてはならない。
- ◆中勘助や芹沢銈介のような静岡市にゆかりのある人物を伝承する人づくりに取り組むとともに、駿府匠宿は、本市の地場産業及び地域の歴史への理解を深め、地域経済の活性化を図る役目に留まらず、地域文化や静岡学を深める人づくりの場としての役割を果たしていくことが望ましい。

全体評価

◆令和4年度における文化事業は、コロナ禍を経て、文化活動や社会的価値が多様化する中、試行錯誤しながらも情勢に応じて臨機応変に施策を展開することができた。これまでの考え方を柱にしつつ、デジタル化などコロナ禍で得た手法・知見を取り入れた新しい取り組みに注力するとともに、第2期計画において注視すべき新しいビジョンを以下のとおり整理して総括としたい。

①環境や年齢層に捉われない多様な選択肢を有する文化事業の発展的な継続

多文化社会に対応できる柔軟な事業を展開していくことで、個人を取り巻く環境や年齢等に左右されることなく、自ら選択し、文化事業により社会参画や地域参画を実現していくことを期待する。また、日常的に出会える文化事業の実施に工夫を凝らすことで、市民にとって文化が身近なものとなり、伝統文化や地域文化への認知度向上の一助となることを期待する。

②公共施設における事業展開と創造的活用

地域の魅力向上に留まらず若年層の伝統文化離れに対応していくため、既存の取り組みに新しい要素を積極的に追加していくことが望ましい。

公共施設に求められる新たな役割の一つとして、地域の資源や周辺施設、市民と地域課題を複合的に結びつける視点を持ち、居場所づくりや文化・観光・経済の好循環につながる活用を進めていくことが求められる。

伝統の良さを大切にしながらもそれにこだわらず、関係団体や関係機関と連携を図りながら柔軟に新しさを取り入れて開けた文化事業の展開に力を入れていくとともに、幅広い層の市民に本市の文化的価値、文化観光への理解が深化し、シビックプライドの醸成に繋がる人づくりのための学びの場となることに期待したい。

コロナ禍を経て、公共施設の在り方が問われる中、利用者のためだけの施設のみならず、また、一過性の事業を行うための施設ではなく、市民にとって第三の居場所となるような施設の在り方を検討するとともに、文化活動を継続する市民の受け皿となり、人々の交流の場、新たな価値創造の場として機能していく事を期待する。

また、地域の魅力となるシーズ事業において、ターゲット層に応じた効果的な手段での情報発信の強化に取り組んでいくことが求められる。

創造的魅力づくり

視点におけるポイント

評価すべき点

- ◆「フィルムコミッション事業」は、静岡市の観光資源のみならず地域文化や生活文化を効果的に紹介・発信するツールとして評価できる。
- ◆「駿府匠宿における創作体験」では、静岡に伝わる伝統文化の体験のみならず新しい創作技術を市内外の人々が共に学ぶことができ、広く定着している点が評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

- ◆静岡市歴史博物館を基軸にしつつ、魅力づくりのためには、歴史文化資源の保存・継承も大事だが、新しい価値を創造するための創造的活用が求められる。
- ◆担い手育成や伝統文化の保存・継承事業においては、その後の受け皿となる組織・設備等の構築を合わせて考えていくことが望ましい。
- ◆市内における文化施設等においては、文化観光の視点に立って、若年層を中心とした新規層に印象付けるため、既存のものを活用しつつ、新しい要素を積極的に追加した取り組みを展開していくとともに、各施設の連携を強化し、それぞれの特色やノウハウを上手く活用し合うことで文化と人、文化と社会をつなぎ、地域に還元していくことが望ましい。

創造的にぎわいづくり

視点におけるポイント

評価すべき点

- ◆静岡まつりをはじめとした地域を代表する取り組みは、コロナ禍においても、にぎわいづくりに力を緩めず、継続できた点は大きく評価できる。
- ◆コロナ禍にあって文化施設の活用に工夫が出来た点は評価できる。
- ◆駿府城夏まつりやストレンジシード開催事業は、誰でも気楽に文化を楽しめる事業として評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

- ◆市内ではつとに知られた動員力のあるまつりやイベントにおいて、インターネットやSNS等を用いた国内外、特に海外向きの情報発信が十分になされていない。地域の魅力となるシーズ事業の情報発信により一層力を入れていくことが望ましい。
- ◆「まちは劇場」を実現していくには、日常的に文化と出会う場づくりを行っていく必要がある。
- ◆コロナ禍において、活動そのものが減り、同時に活動する場も様変わりした。今後、公共施設はどのような場を提供できるのか、民間を含めた力によってあらゆる立場の市民を受け入れる第三の居場所（サードプレイス）が一つでも多く創出されることを期待する。